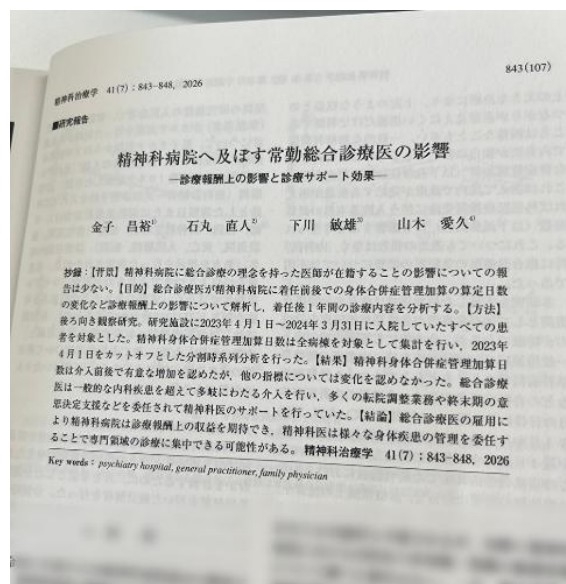
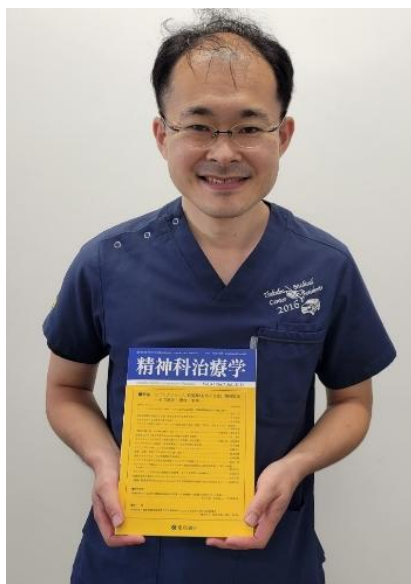
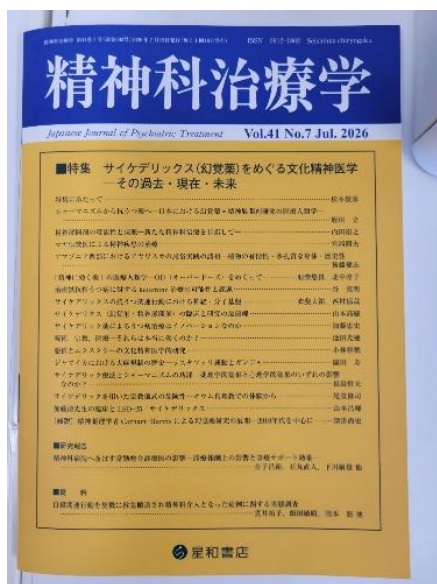


総合診療医の役割

垂水病院、内科医長の金子です。精神科の病院に入院されている患者さんの中には、糖尿病や高血圧、肺炎、皮膚の病気など、体の病気をあわせ持つ方が少なくありません。特に当院は病院の特性としてアルコール性肝硬変の患者様が非常に多いこともあり、こうした「身体合併症」への対応は大きな課題の一つでした。

このたび私たちの研究チームは、体の病気全般を診る「総合診療医」が常勤で勤務するようになった前後で、患者さんへの診療がどのように変わったかを調べ、その成果を国内の主要な学術誌である「精神科治療学」に発表しました。その結果、総合診療医の着任後は、体の病気を持つ患者さんへの診察の機会が着実に増え、重い合併症を持つ方にも継続して丁寧な診察が行われるようになったことがわかりました。着任後の1年間で300名以上の患者さんを診察し、糖尿病や高血圧、肝硬変のほか、床ずれや肺炎、がんなど幅広い病気に対応しました。また、他の病院へ転院が必要になった際の調整や、病気が重くなった方への対応の相談なども総合診療医が中心となって担い、精神科の医師が心の治療に専念しやすくなったことも確認されました。

今後も私たちは精神科の治療と身体の健康管理の両面から、患者さん一人ひとりに寄り添った医療を提供してまいります。また日本国内の精神科病院全体の身体合併症治療のレベルアップへ向け、総合診療医と精神科病院双方の懸け橋となるような運動を展開していきたいと思っています。



研修報告



日本在宅医療連合学会大会



垂水病院、訪問看護室の川崎です。

2026年7月4日～5日に、当院内科医の金子医師と共に、札幌コンベンションセンターにて開催されました第8回日本在宅医療連合学会大会（在宅医療ララララ次世代の在宅医療）にポスター発表という形で参加いたしました。在宅医療って言葉は堅苦しい感じですが、自宅で療養する方が、必要な医療とその方らしく過ごすためのケアを受ける制度や支援のことです。

私たちのポスター発表の内容は、金子医師と共に関わった難聴のあるアルコール依存症の方が、身体疾患の通院先の総合病院と当院との間での本人の意思決定（どうしたいか、何を求めているか）を導き伝え、本人の望む生活を支えるためにどのように関わったのかを発表いたしました。この発表を通じて精神科疾患を抱えた患者が最後まで自分らしく生活するために、精神科訪問看護師が医療ケアだけではなく精神面でも寄り添い続けることができる、ということを参加者の方にお話しすることができました。

発表の最後に西宮で開業されている精神科医師から「この患者さんは幸せでしたね」と感想を述べてもらえました。意思を伝えること、言葉や態度で表現できない方であっても意思決定をすること、それを支えることが大事だと再認識いたしました。

訪問看護室のスタッフは、療養しながら自宅で生活続けたい患者様に対して少しでも関り、サポート出来たらとの思いで訪問しています。地域、自宅での生活に戸惑いがある方、私たち訪問看護師と話をしてみませんか？診察時に主治医、もしくは外来受付で声をかけてください、私たちとつながりましょう。きっと、たくさんのつながりができると信じています。



白衛隊阪神病院

依存症勉強会

依存症専門病棟、看護師長の藤田です。

当病棟では今年度の目標・取り組みの一つとして、「依存症を認知してもらえよう、地域活動に注力する」ことを掲げています。

依存症の患者様への関わり方に悩んでおられる医療機関が地域には少なくありません。さまざまな研修会や交流会に参加する中で、そうした声を耳にする機会が増えていました。

「私たちに何かできることはないだろうか」

そんな思いから多職種で話し合いを重ね、「依存症についての勉強会を地域で開催してみよう」という取り組みを始めました。その第一弾として、7月9日、川西市にある白衛隊阪神病院を訪問し、医師・看護師・精神保健福祉士の3名で依存症勉強会を開催させていただきました。

今回の勉強会では、「依存症とは何か?」「どのように関わればよいのか?」といった内容について、私たちのこれまでの経験を交えながらお話ししました。当日は医療従事者の方だけではなく、白衛隊の部隊の方々にもご参加いただきました。皆さんが真剣に耳を傾けてくださる姿を見て、私たち自身も身が引き締まる思いでした。

講演後には依存症治療について関心を持っていただき、活発な情報交換を行うことができ、私たちにとっても日頃の取り組みや経験を地域の皆さんと共有できたことは、とても嬉しく貴重な時間となりました。実際に地域でお話をさせていただく中で、依存症治療への対応に苦慮されている医療機関が、決して少なくないことを改めて実感しました。

依存症は患者様やご家族だけで抱えるのではなく、医療機関や地域・さまざまな職種がつながりながら支えていくことが大切です。今回の出会いを一つのきっかけとして、私たちも地域とのつながりを大切にしながら「依存症について知ってもらうこと」「必要な支援をつなげること」をこれからも続けていきたいと思えます。

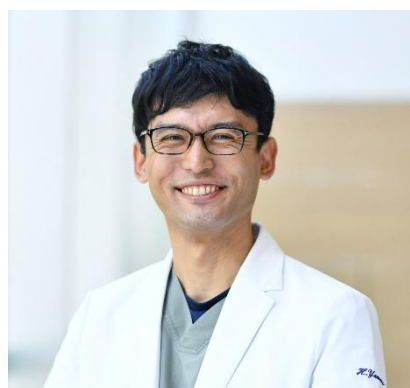
勉強会を温かく受け入れてくださり、熱心に講演を聞いてくださった白衛隊阪神病院の皆様に改めて心よりお礼申し上げます。一人でも多くの方に依存症を正しく知っていただき、支援につながるきっかけをつくる。そのためにこれからも私たちは地域へ出向き、顔の見えるつながりを大切にしていきたいと思えます。

依存症治療について、また依存症の患者様への対応などでお困りの医療機関や地域の関係機関の方がおられましたら、どうぞお気軽にご相談ください。





医師の紹介



山名 浩史

診療で大切にしていること

患者様のお話を丁寧に聞き、症状だけでなく生活背景にも思いを巡らして患者様に合った治療を行いたいと考えています。

好きなこと 趣味・特技

食べること・ゴルフ 最近ジム通いを始めました。



垂水病院祭のお知らせ

令和8年度も、垂水病院祭を開催いたします！

日時：令和8年 11月7日（土）10:00～15:00

当院の各部署スタッフがそれぞれフードブースを担当します。

去年は栄養課のスイーツがプロ級に美味しくて大人気でしたが、今年はどうなるでしょうか。
メニュー考案にも力が入りますね。

外来の方や、ご家族、面会の方、近隣にお住まいの方など、どなたでもご参加いただけますので、ぜひお越しください！

令和8年 11月7日（土）
10:00～15:00

垂水病院祭

※フードの予定は昨年のものです。販売内容は変更の可能性がありますのであらかじめご了承ください。

院内で軽食の販売などを行います。外来患者様や、ご家族・面会の方、近隣にお住まいの方もお気軽に遊びにいらしてください。

公益財団法人 復光会
垂水病院

T 651-2202
神戸市西区押部谷町西盛566番地
F 078-(994) 1151

ホームページはこちら



公益財団法人 復光会

垂水病院

診療科目 精神科 心療内科



ホームページは こちらから

〒651-2202 神戸市西区押部谷町西盛566

TEL 078-994-1151（代）

FAX 078-994-2941

URL <https://www.tarumi-hospital.jp>

